

**平成30年度進行管理・評価シート**  
**高山市歴史的風致維持向上計画（平成30年3月26日認定）**

**□進捗評価シート(様式1)**

①組織体制(様式1-1)		
1 計画の推進体制	.....	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 景観計画との連携	.....	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 歴史的建造物活用整備事業	.....	3
2 歴史的町並保存事業	.....	4
3 景観重要建造物等修景事業	.....	5
4 伝統構法木造建築物耐震化事業	.....	6
5 無電柱化等事業	.....	7
6 町並み景観保全事業	.....	8
7 屋台保存事業	.....	9
8 伝承芸能保存事業	.....	10
9 郷土の歴史・文化の語り部育成事業	.....	11
10 伝統行事担い手支援事業	.....	12
11 文化遺産・地域資源活用調査事業	.....	13
12 町並み歩行空間創出事業	.....	14
13 スポット整備事業	.....	15
14 城山公園等整備事業	.....	16
15 日本遺産活用整備事業	.....	17
16 まちの博物館外国語対応事業	.....	18
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の修理事業、周辺環境の整備事業等	.....	19
2 文化財に関する普及・啓発の取組等	.....	20
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		
1 新聞報道	.....	21
⑥その他(効果等)(様式1-6)		
1 外国人観光客数の推移	.....	22
2 秋の高山祭における「当番飾り」の復活	.....	23
<b>□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)</b>	.....	<b>24</b>

評価軸①-1  
組織体制

項目	評価対象年度	平成30年度
		現在の状況
計画の推進体制		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容  
 計画の推進にあたっては、都市計画課と文化財課が事務局を務め、各事業の実施については、各事業担当課と連携調整を行うとともに、文化財所有者や周辺住民、関係団体や事業者等と協議・調整を行うものとする。また、必要に応じて国や岐阜県、各審議会と協議を行い、助言や支援を得るとともに、法定協議会である高山市歴史的風致維持向上計画協議会において、計画の推進や計画変更、円滑な事業の実施に向けた協議を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

都市計画課と文化財課の連携の下、頻繁な打ち合わせにより計画の推進を図った。各事業の検討においては、事業所管課を中心に関係各課との連携を図るとともに、地元住民や関係団体等と意見交換を重ね、事業の推進を図った。住民等との意見交換により、事業に対する地元の理解を深めることができた。計画の進行管理・評価においては、平成30年度進捗評価を実施し、その評価結果について法定協議会である「高山市歴史的風致維持向上計画協議会」から意見聴取を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



令和元年5月17日に開催した  
高山市歴史的風致維持向上計画協議会の様子

■法定協議会への協議状況

○高山市歴史的風致維持向上計画協議会  
 開催日 令和元年5月17日  
 開催場所 高山市役所 202会議室  
 (議題)  
 ・平成30年度進行管理・評価について



平成31年2月22日に開催した  
高山市伝統的建造物群保存地区保存審議会の様子

■関連協議会への協議状況

○高山市伝統的建造物群保存地区保存審議会  
 開催日 平成31年2月22日  
 開催場所 高山市役所 202会議室  
 (議題)  
 ・地区内の公共工事について等

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
景観計画との連携(屋外駐車場の景観形成基準の新設)		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容  
 城下町高山の大部分を「城下町景観重点区域」、「風致地区景観重点区域(城山、北山、東山)」及び「中心商業景観重点区域」に指定しており、建築物や工作物と併せて屋外広告物についても細かい規制を実施している。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

観光客の増加に伴う大規模なホテルの進出や空地となった土地などの活用によって、中心市街地における駐車場の新設が増加しており、これらの設置により連担性のある家並みなどの良好な町並み景観が乱れるおそれがあるため、高山市景観計画に駐車場に関する景観形成基準を新たに規定した。  
 また、取組みを促進するため、板塀や生け垣などを設置する場合の助成について、対象区域を市全域に拡大し、景観重点区域においては補助率及び限度額を嵩上げた。今後、板塀や生け垣の設置による町並み景観の向上が期待される。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

○駐車場の景観形成基準の新設

1) 基準

中心市街地における町並みの連担性の確保を図るため、屋外に設置する駐車場の道路側の間口においては、駐車場の目隠しとなるよう板塀又は生け垣等を設置する。ただし、出入りに必要な部分及び交通安全の確保に必要な部分を除く。

(板塀とする場合は透かしやスリット等を設け、防犯に配慮する)

2) 適用区域

- ・城下町景観重点区域
- ・中心商業景観重点区域
- ・高山市市街地景観保存条例の規定により定められた市街地景観保存区域
- ・駐車場法の規定により定められた駐車場整備地区



板塀のイメージ



生け垣のイメージ

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
歴史的建造物活用整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和6年度

支援事業名 景観まちづくり刷新支援事業

計画に記載している内容 歴史的建造物の保存・活用を図るため、空き家となった町家等を取得又は借上げのうえ修理・修景を行い、地域の歴史的風致の核となる施設として整備する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

下二之町大新町伝統的建造物群保存地区内の空き家となった町家(旧村田邸)について、若者を中心とした活動拠点施設として整備を行うため、今年度、土地建物の取得及び設計業務を実施した。整備方針や運用方法について、高校生を含む公募市民による検討会や地元住民等と、意見交換や現地見学などを行いながら検討を進めたことで、官と民のお互いの思いの共有を図ることができ、事業への理解が深まった。検討会などの提案を基に、主屋は保存・復元して伝統的建造物を体感できる空間とするほか、倉庫は休憩スペースやイベントの開催場所に活用、土蔵は読書や談話、映写など多様な目的で利用できる場所とするなど、保存と活用を両立させる計画とした。来年度、改修工事を実施する。

- 平成30年度実績
  - ・土地建物の取得 一式
  - ・建物改修工事に係る設計業務 一式

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



改修予定の「旧村田邸」の主屋(右)及び倉庫(左)

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
歴史的町並保存事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	昭和54年度～令和6年度		
支援事業名	重要伝統的建造物群保存地区保存事業		
計画に記載している内容	重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の修理及び外観の修景、防火対策に要する経費の一部を助成することにより、歴史的な建造物の保存を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の計画的な修理や修景を実施することにより、建造物の適切な保存や町並の景観保全を図ることができた。また、防火帯としての土蔵の修理を行い、伝建地区内における防火帯維持を図ることができた。			
<input type="checkbox"/> 平成30年度実績 ・伝統的建造物群保存地区保存修理事業 10件(修理6件、修景4件) ・伝統的建造物群保存地区防災対策事業 直接工事1件 修理補助3件			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

伝統的建造物群保存地区保存修理事業により修理が行われた住宅



修理前



修理後

伝統的建造物群保存地区防災対策事業により修理が行われた土蔵



修理前



修理後

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
景観重要建造物等修景事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成26年度～令和6年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容 景観重要建造物の外観を維持するために必要な修理や修景に要する経費の一部を助成することにより、まちの景観形成の核となる建造物の保全を図る。  
市街地景観保存区域内において行われる建築物の新築・修理等の行為が、伝統的な意匠を基本とした一定の基準を満たす場合に、当該行為に要する経費の一部を助成し、町並み景観の保全を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市街地景観保存区域内の建造物における一定の基準を満たす建築行為に対して補助を行った。歴史ある建造物の維持保全にかかる所有者の経済的負担を軽減するとともに、建造物の形態や意匠等の無秩序な変更を防ぐことにより、周辺の景観と調和した趣のある町並みが保全された。

- 平成30年度実績
- ・市街地景観保存区域建造物修景事業: 10件 (H29: 4件)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

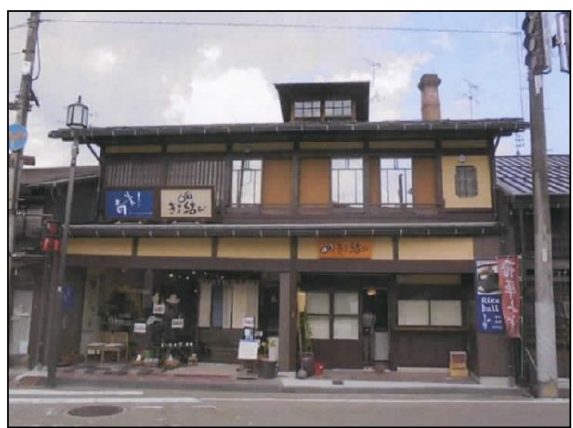
- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

市街地景観保存区域建造物修景事業により修景が行われた建造物



修景前



修景後

評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
伝統構法木造建築物耐震化事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	平成26年度～令和6年度
支援事業名	市単独事業

計画に記載している内容  
 建築基準法施行前に建築された木造建築物は、現在の建築基準法に基づく耐震診断を行った場合、耐震性が非常に低いという結果が出てしまうが、反面、柔らかさや粘り強さがあるという特徴があることから、その特徴に応じた耐震診断や耐震改修工事を行うための「高山市伝統構法木造建築物耐震化マニュアル」を平成25年度に作成した。このマニュアルに基づいて行われる、伝統的な木造建築物の耐震診断や耐震改修工事に対して補助金を交付する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成25年度に作成した「高山市伝統構法木造建築物耐震化マニュアル」に基づいて行われた、伝統的な木造建築物の耐震診断や耐震改修工事に対して補助を行った。耐震性の向上により、継続的に居住できる環境と伝統的な建造物の維持が図られた。

- 平成30年度実績
  - ・伝統構法木造建築物耐震化事業補助 耐震診断:2件(H29:2件) 耐震改修:4件(H29:3件)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



耐力壁の設置による耐震化

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
無電柱化等事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	平成29年度～令和6年度
支援事業名	景観まちづくり刷新支援事業

計画に記載している内容  
 高山駅方面から三町伝統的建造物群保存地区や飛騨高山まちの博物館へつながる通り等において、伝統的な町並み景観の再生を図るため、景観を阻害している電線等を地中化するとともに、車道・歩道・側溝等について景観に配慮した整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成29年度に測量設計を実施したところ、当該路線には無電柱化に必要な地上機器の設置位置・基数の確保が困難なことや、既設地下施設(NTT幹線管や下水道管)と新設する電線共同溝施設との離隔が確保できないことなどの課題が判明し、今年度着工を予定していた電線共同溝工事の実施ができなかったことから、改めて設計を行うこととする。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	通常の電線共同溝の仕様では施工できないため、電線管理者(中部電力株)と共同研究の協定を結び、課題解決のための施工方法について検討を行う。

状況を示す写真や資料等



無電柱化予定路線の現状



無電柱化整備後イメージ



評価軸③-6  
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
町並み景観保全事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成21年度～令和6年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)		
計画に記載している内容	良好な町並み景観の創出を促進するため、景観に配慮した形態意匠の看板を設置する場合や、板塀や生け垣を設置する場合等に補助金を交付する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
高山の景観にふさわしい看板の設置やふさわしくない看板の撤去、生垣の設置に対し補助を行った。 平成29年4月から運用を開始した屋外広告物掲出の新基準に適合しなくなった看板については、撤去・改修に対する3年間の特例補助制度を設け、所有者に対する個別協議により是正の促進を図ったことにより、多くの看板の撤去、改修が完了し、町並み景観の向上に大きく貢献した。			
<input type="checkbox"/> 平成30年度実績 ・看板設置及び撤去補助:重点区域内15件 重点区域外4件(H29:計21件) ・生垣設置補助:重点区域外3件(H29:1件) ・塀等設置補助:重点区域内2件 重点区域外4件(H29:計6件)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	既存不適格の屋外広告物等について、令和元年度末までに是正が完了するよう、所有者に対する個別協議を進める。		
状況を示す写真や資料等			

高山の景観にふさわしい看板補助金の活用により撤去された看板



撤去前



撤去後



撤去前



撤去後

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
屋台保存事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成2年度～令和6年度

支援事業名 屋台修理:重要有形民俗文化財修理、防災事業  
保存活動への助成:市単独事業

計画に記載している内容 非常に価値の高い意匠を持つ高山祭の屋台の保存管理については、専門的な技術による管理やからくりの伝承等が不可欠であるとともに、屋台の修理には多額の資金が必要である。屋台修理・屋台蔵修理を計画的に実施するとともに、屋台の保存に関わる団体の活動に対して助成を行い、屋台の保存を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

高山祭屋台の保存修理事業を行い、将来への屋台の継承に寄与した。  
平成30年度実績  
 ・大国台、宝珠台、八幡鳳凰台、龍神台、麒麟台、布袋台修理  
 高山祭屋台の保存防災施設である屋台蔵の修理を実施し、防災・防犯の機能を回復させた。  
平成30年度実績  
 ・五台山屋台蔵修理  
 高山祭の屋台を保存する活動を行う団体に対して補助を行ったことにより、屋台の保存や修理技術の継承に寄与した。  
平成30年度実績  
 ・高山祭屋台管理費補助金 1件 (高山屋台保存会)  
 ・からくり屋台管理技術伝承保存補助金 1件 (高山屋台保存会)  
 ・高山祭屋台保存技術伝承保存補助金 1件 (高山・祭屋台保存技術協同組合)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している  
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



大国台の屋根の修理状況



高山・祭屋台保存技術協同組合が参加した研修会の様子

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成30年度
項目	現在の状況	
伝承芸能保存事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成2年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 市内各地で行われている伝承芸能、祭礼活動等は、そこに住む人々の教養や娯楽、環境等から生まれた特有の文化であり、地域の誇りである。しかし、近年、後継者の不足や保存会活動費の不足等で伝承していくことが困難となっている。これらの保存活動に対して助成を行うとともに、記録映像を作成し後継者育成に活用することで、後世への継承を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

地域の伝承芸能の保存団体に対して活動助成を行ったことにより、伝承芸能の継承に寄与し、地域の誇りの醸成に貢献した。

- 平成30年度実績
- ・伝承芸能保存団体補助金:20件

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

■伝承芸能保存団体

高山市子供伝承芸能連合保存会	伊勢神楽保存会
岩滝民謡保存会	ひねりの舞保存会
飛騨総社親子獅子舞保存会	荘川民謡保存会
高山民謡保存会	一之宮町子ども会鬨鶏楽伝承会
下切町金蔵獅子保存会	桐谷槍獅子保存会
飛騨東照宮おかめ・獅子舞保存会	金桶金蔵獅子保存会
飛騨天満宮徳兵衛獅子舞保存会	広瀬金蔵獅子保存会
千島白山神社獅子舞保存会	荒城神社無形文化財保存会
錦山神社徳兵衛獅子保存会	上広瀬金蔵獅子保存会
新宮町伊勢神楽保存会	
宗和流四常社	



広瀬金蔵獅子保存会による金蔵獅子

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目			現在の状況
郷土の歴史・文化の語り部育成事業			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成30年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 多くの市民が郷土の歴史・文化を語るができるよう、高山市が認定する歴史ガイドマスターが講師となり、市民による「語り部」を育成することで、後世への継承を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

高山の歴史・文化・自然・ガイド技術などについて学ぶ、語り部養成講座を開催した。参加した市民、ガイドボランティア、観光業者等の方々は、語り部としての活動に役立つ知識や技術を習得することができ、語り部としての資質の向上に寄与した。

- 平成30年度語り部養成講座開催実績
  - ・開催回数:2回(全9講)
  - ・参加延べ人数:127名

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



第1回語り部養成講座の実施状況  
(平成30年11月25日)



第2回語り部養成講座の実施状況  
(平成31年2月24日)

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
伝統行事担い手支援事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成30年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	祭りなどの伝統行事の継続に苦慮している地域において人材の確保を図るため、地域内外から伝統行事の担い手として高い志を持った人を募り、伝統行事の実施者と支援希望者をマッチングさせるための人材登録・斡旋を目的とした仕組みの構築及び組織化を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
今年度は、市外の団体が行っている祭礼支援の事例の紹介などを参考に、祭礼関係者と制度設計にかかるを調製を行った。その結果、支援希望者の受入れについて、各神社及び祭執行の組織である各屋台組によって求められるニーズや対応が異なり、一律の支援策では不十分なことなど制度上のさらなる課題が抽出された。次年度以降は、30年度成果を反映した制度設計と、試験的な運用を行う予定である。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	当初計画していた一律的な支援策では多様なニーズ等に応えられないため、祭り関係者と更なる協議を行い、より効果的な対応策を検討する。		
状況を示す写真や資料等			



神社氏子代表らとの打ち合わせの様子

評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
文化遺産・地域資源活用調査事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成30年度～令和2年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容  
 高山祭の屋台は、国指定文化財の23台(山王祭、八幡祭)、県指定文化財の2台(飛騨総社、東山白山神社)が現存しているが、かつては更に多くの屋台が存在していたことが知られている。また、旧町村地域にも現在は使われなくなった屋台が蔵に保管されているほか、詳細な調査が行われていない地域資源も存在している。これらの文化遺産等について、現存する資料の把握や現地調査、聞き取り等により、その歴史的経緯や現状について調査を行い、保存・復刻・活用等を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

高山祭の屋台について、大学への委託により構造の調査を行った。また、朝日地域に保管されている3台の屋台について、三次元測量調査を行ったことにより、今後屋台図面の作成、他の屋台との比較検証が可能になった。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している  
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



朝日町立岩の神楽台  
 三次元測量調査を行った朝日地域の屋台の1つ

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況
町並み歩行空間創出事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間	平成29年度～令和6年度
支援事業名	景観まちづくり刷新支援事業

計画に記載している内容 重要伝統的建造物群保存地区及びその周辺の通りにおいて、景観に配慮した舗装・側溝の整備による美装化や、外縁部の駐車場からの誘導ルートとなる人道橋の新設などを行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市道鉄砲下一之町1号線(江名子川沿い道路)について、骨材に輝緑岩を使用した舗装材や御影石を使用した区画線を採用し、高質及び景観配慮型の道路修景整備を行った。町並み景観と調和した、潤いのある歩行空間が創出された。宮川朝市通りがある宮川右岸と、本町通り商店街のある宮川左岸とを結ぶことで新たな歩行ルートを確認し、まちなかにおける観光客等の回遊性を高める宮川人道橋(仮称)について、学識経験者や市民等による検討や住民要望を踏まえて設計を完了した。木質の装飾をほどこし、夜間景観の創出にも配慮するなど、新たな景観スポットとなるようなデザインを取り入れることで歩行空間の演出を図る。

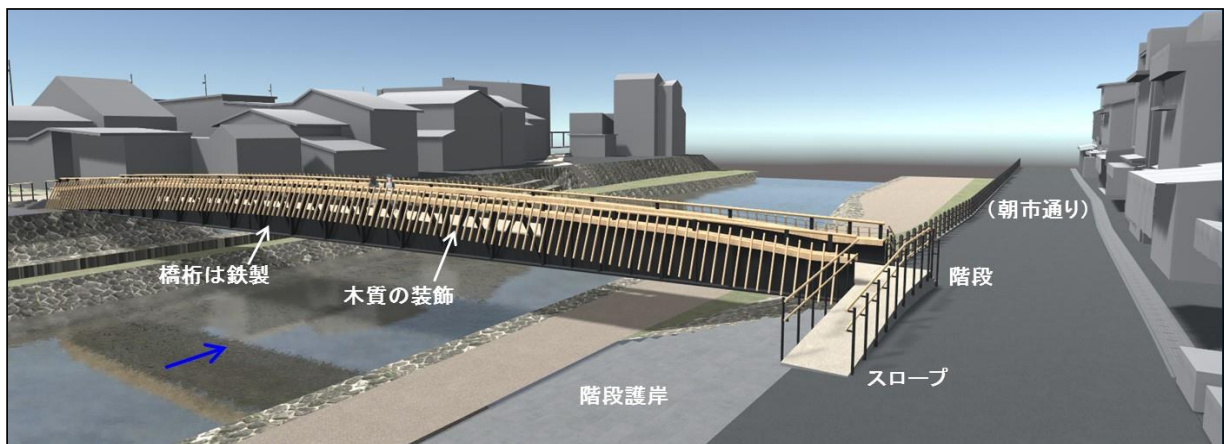
□平成30年度実績  
 ・市道鉄砲鉄砲下一之町1号線修景整備(施工延長 L=210.5m) ・人道橋整備(設計業務、用地取得、移転補償)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



宮川人道橋(仮称)の整備イメージ図



評価軸③-13  
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成30年度
	現在の状況	
スポット整備事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間	平成21年度～令和6年度
支援事業名	景観まちづくり刷新支援事業

計画に記載している内容 観光客が楽しく快適にまちを巡ることができる歩行空間を創出するため、主な動線にまちかどスポット(お休み処)を整備する。整備においては、景観に配慮したベンチや植栽等の配置を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市道鉄砲下一之町1号線の修景整備と併せ、経年により景観の面からも状態が悪くなっていた江名子川左岸スポットの再整備を実施した。植栽帯やベンチ等を更新したことで、道路の修景と相まって快適で潤いのある歩行空間が創出された。  
平成30年度実績  
 ・江名子川左岸スポット整備(縁石工 L=128m、玉砂利工 A=10㎡、ベンチ工 N=4箇所、植栽工 N=1本)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している  
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

江名子川左岸スポットの整備状況

(整備前)



(整備後)





評価軸③-14

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
城山公園等整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成30年度～令和元年度		
支援事業名	景観まちづくり刷新支援事業		
計画に記載している内容	高山城の当時の面影を感じることができる城山公園内遊歩道や、金森氏ゆかりの寺院が連なる東山遊歩道において、多言語表記等により、案内表示の再整備を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
東山遊歩道及び城山公園において、老朽化した案内板の更新や新たな案内板の整備を行った。整備においては、景観に配慮したデザインとしたほか、外国人に対応するため多言語表示(5ヶ国を基本)とし、観光客等の周遊性の向上に寄与している。			
<input type="checkbox"/> 平成30年度実績 ・東山遊歩道及び城山公園の案内板整備(更新12箇所、新設7箇所)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

東山遊歩道の案内板整備状況



(整備前)



(整備後)

城山公園の案内板整備状況



(新設)

評価軸③-15

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成30年度 現在の状況
日本遺産活用整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成28年度～令和元年度

支援事業名 日本遺産魅力発信推進事業、景観まちづくり刷新支援事業

計画に記載している内容 「飛騨匠の技・こころ一木とともに今に引き継ぐ1300年ー」が日本遺産に認定されたことを受けて、ストーリーを構成している多数の文化財を紹介する案内表示の整備等を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成30年度実績  
 ・ガイド育成講座 国府地域3月  
 ・モニターツアー 国府地域3月  
 ・中部国際空港PR看板設置 1カ所  
 ・パンフレットの作成・配布  
 ・匠フォーラム開催  
 ・建造物調査  
 ・説明看板製作 2件  
 ・WEB媒体啓発(レアニッポン掲載)  
 ・高山城下町構成文化財デジタルコンテンツ制作  
 ・中学校での飛騨の匠の技・こころ体験教室 のべ5回  
 上記事業により、観光客及び市民に対する普及啓発が促進した。特に、デジタルコンテンツの制作は従来なかった試みで、今後様々な構成文化財を対象に制作数を増やす予定である。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している  
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



デジタルコンテンツ制作による高山城CG



匠フォーラムの様子  
(平成30年12月22日)



建造物調査状況  
(日本遺産構成文化財の年輪年代調査)

評価軸③-16

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況
まちの博物館外国語対応事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成30年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 外国人観光客の増加に伴い、外国人観光客が多く立ち寄る飛騨高山まちの博物館において、展示物の説明表示を多言語化するとともに、外国語で展示内容や高山の歴史文化を説明できるガイドを養成する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

飛騨高山まちの博物館ボランティアガイド有志が、多言語ガイドに関する勉強会(多言語ボランティアの会)を実施した。また地域通訳案内士へ、まちの博物館主催「語り部養成講座」への参加を呼びかけ、参加があった。両事業に参加したボランティアガイドや地域通訳案内士は、外国人へのガイドを行う際に必要な、高山の歴史・文化についての具体的な知識や手法について習得することができ、ガイドの資質向上に寄与した。

□平成30年度実績

多言語ボランティアの会

・開催回数:8回、 ・参加延べ人数:51名

「語り部養成講座」への地域通訳案内士の参加

・第1回:1名 ・第2回:9名

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している  
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

ボランティアガイド有志による勉強会(多言語ボランティアの会)開催状況

開催日	時間	参加人数
6月17日	15:00～17:30	3名
7月29日	15:00～17:00	8名
9月2日	15:00～18:00	9名
10月7日	15:00～17:00	9名
11月10日	13:00～17:00	7名
12月9日	15:00～17:15	5名
1月20日	13:00～17:00	5名
3月10日	15:30～17:00	5名



第2回語り部養成講座の様子  
(平成31年2月24日)

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
文化財の修理事業、周辺環境の整備事業等		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	指定等文化財については、適切な保存が図られるよう計画的に修理を実施する。 文化財指定建造物のほとんどが木造であり、火災や地震に対し脆弱であるため、火災報知設備の設置や耐震対策を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
市指定文化財の計画的な修理や防災対策を実施することにより、適切な保存を図ることができた。防犯については、巡回員などの監視に委ねられているが、今後とも所有者の意向を踏まえながら必要に応じ設置を検討していく予定である。 <input type="checkbox"/> 平成30年度実績 <input checked="" type="checkbox"/> 指定文化財の保存修理事業 3件 (市指定: 田上家住宅塀・防災設備、岩船の滝お堂)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

田上家住宅 防災設備設置状況



岩船の滝のお堂 屋根修理状況



評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成30年度
		現在の状況
文化財に関する普及・啓発の取組等		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容  
 飛騨高山まちの博物館については、市の歴史民俗資料の保存活用の中心施設として、郷土教育や伝統文化の継承の場としても活用を図っていく。  
 文化財に関する講座の開催や出前講座の開催等、文化財の保存及び活用に関する普及啓発を、様々な機会を使って実施する。  
 町並み保存団体、屋台組をはじめとする文化財を保存・活用する各種団体については、活動への助成、情報提供、研修等を通じて組織の維持と活性化を支援していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

飛騨高山まちの博物館において、特別展を年4回開催し、趣向を凝らした展示により多くの来館者に高山の歴史や文化にふれていただく機会を提供し、下記の成果を得た。

○飛騨高山まちの博物館利用者数 平成30年度 175,853人(平成29年度 184,273人)

市史編纂員等を講師とした「高山歴史講座」を4回開催した。延べ275人の参加があり、市民への啓発が促進された。

景観町並保存会や高山祭の屋台を保存する団体、地域の伝承芸能や文化財の保存団体に対して活動補助を行った。

- 平成30年度実績
- ・景観町並保存会に対する補助金 21団体
- ・高山祭の屋台保存に関する補助金 2団体
- ・指定文化財保存会に対する補助金 2団体
- ・史跡保存会に対する補助金 12団体

地域の有形無形の伝統文化や文化財の保存活用、美しい景観の保全などを目的に、3年以上活動している団体や個人を市長が認証する「美しいふるさと認証制度」について、今年度8団体を認証し、これまでの認証団体が127団体となった。各団体の活動を公的に認めることにより励みとなるほか、市広報誌などでのPRにより、活動の活発化につながった。

- 平成30年度美しいふるさと認証者
- ・史跡保存 1団体、民俗文化保存 3団体、伝統文化啓発 1団体、景観保全3団体

高山市景観町並保存連合会の3つの専門部会において、市との連携により次の事業が行われた。「御朱印めぐり」では、次代を担う児童生徒を対象に、町なみの成り立ち、特徴などを啓発普及することができた。また、広報誌配布により、伝建地区および景観町並保存地域住民らに、近年の景観町並の保護に関する情報の周知が図れた。

【高山市景観町並保存連合会の活動実績】

- ・広報誌「町なみ飛騨高山」を制作し、各保存会や関連施設等に配付したほか、市ホームページに掲載した
- ・「東山発見！ご朱印めぐり」7月21日(土)開催 参加者:21人

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

計画どおり進捗している  
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



「東山発見！ご朱印めぐり」の様子  
(平成30年7月21日)

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
「当番飾り」70年ぶり復活	平成30年10月10日	岐阜新聞、高山市民時報、中日新聞
高山祭の宝珠台修理へ解体	平成30年10月21日	岐阜新聞
空き家活用アイデアを 高山市の実行委2軒題材にコンテスト	平成30年12月29日	岐阜新聞
岐阜の岐路 高山の町並み保存地区選定(1979年)熱い思い次世代に	平成31年1月5日	中日新聞
「宮川人道橋」(仮称)のデザイン決まる 木質の装飾施す	平成31年2月20日	高山市民時報
旧村田邸を「若者等活動拠点」に改修 学習やイベントなど多目的に活用	平成31年3月20日	高山市民時報

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

歴史的風致の維持及び向上に資する事業の一環として実施する「宮川人道橋(仮称)整備事業」や「若者等活動拠点施設整備事業」について、整備方針や活用方針のほか、それらの方針が市民等による検討会や住民要望を踏まえて決定されたことが紹介された。地域の活性化や景観保全に資する事業として住民からも注目されていることから、地元紙に大きく取り上げられたものである。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



**「宮川人道橋」(仮称)のデザイン決まる 木質の装飾施す：来年4月の供用予定**

市が整備を計画している「宮川人道橋」(仮称)のデザインが決まり、十九日の市議会・産業建設委員会で報告された。橋は長さ四十一・七メートル、有効幅員三メートル、木質の装飾をほどこしたデザイン(左イメージ図)。学識経験者や商業団体などの選出委員による検討や住民要望を踏まえて決めたという。

人道橋は古い町並や宮川朝市がある右岸と、本町通り商店街など商業空間の広がる左岸を結びこゝとで、市民の利便性向上や、宮川朝市を訪れる観光客らが本町へ足を運びやすくなる回遊性向上などが目的。二十年ほど前から周辺住民や事業者が要望している。

架けるのは鍛冶橋から下流に約三百メートル、弥生橋から上流に約五百五十メートルの場所で、本町側は「四つ葉こみち」付近、宮川朝市側は川岸へ降りる「階段護岸」付近。

事業費は二億八千五百万円、国の補助金が五分割出る。

当初は今年度に整備する計画だったが、住民に親しまれている街路樹を伐採する必要が出たことなどから、調整を図っていた。来年四月の供用開始を予定している。

平成31年2月20日 高山市民時報より



**旧村田邸を「若者等活動拠点」に改修 学習やイベントなど多目的に活用**

市が今年度一億七千六百万円取得した下二町の旧村田邸(左写真)を若者等活動拠点施設として生まれ変わらせるための改修整備が今年度からスタートする。事業費は約二億円で、国交省から五割の補助が受けられる。

旧村田邸は繭卸業「村半」の店舗兼住宅で明治八年ごろの築。六百八十平方メートル敷地に木造二階建ての主屋(延床322平方メートル)と繭倉庫(119平方メートル)と三棟の土蔵(計240平方メートル)が並ぶ大規模な町家で、文化的価値が高いとされている。

が、長年空き家となっていたことが課題だった。そこで市は、建物を保存・活用するとともに、若者らが気軽に集える場所とすることでにきわいを創出しようと、平成二十九年に高校生を含む公募した市民で検討会を立ち上げ、活用方法などの協議を重ねてきた。

検討会などの提案を基に、主屋は保存・復元して伝統的建築物を体感できる空間とするほか、繭倉庫は土足で通り抜けできる空間に整備し、街歩きする人の休憩スペースやイベントの開催場所などに活用。各土蔵は防音などの整備をすることで読書や学習、談話、映画など多様な目的で使える場所にするという。

三十二年の供用開始を目指すという。市は「保存と活用を両立させることで、地域の活性化につなげていきます」と。

平成31年3月20日 高山市民時報より

評価軸⑥-1  
その他(効果等)

評価対象年度 平成30年度

項目

外国人観光客数の推移

計画に記載  
している内容

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

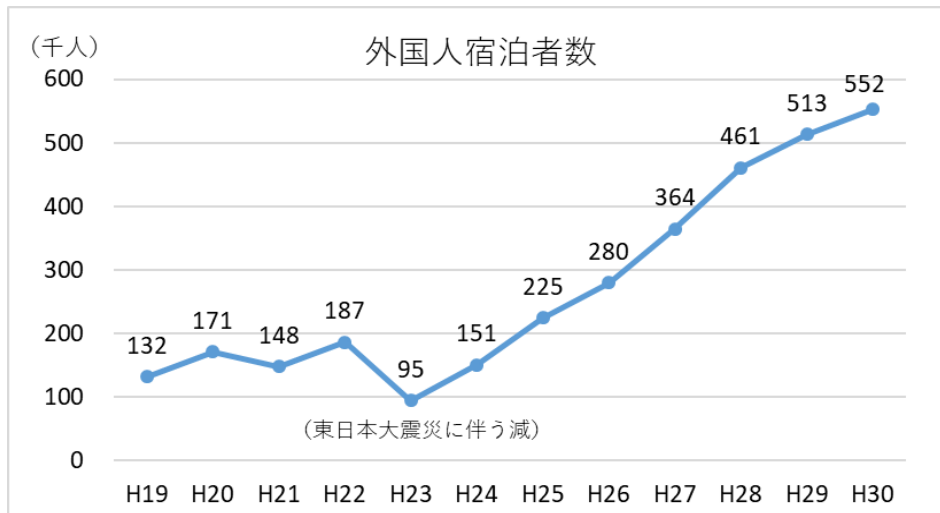
海外での積極的なトップセールスの展開をはじめとして、多言語化したホームページや観光パンフレット等による地域固有の歴史文化の情報発信、案内看板等の多言語化や中心市街地における無料Wi-Fi環境の整備等による受入体制の充実などにより、外国人観光客が年々増加しており、平成30年には過去最高の約55万人(宿泊者ベース)となった。今年度は、外国人旅行者の来訪実態を分析し、地域の歴史的風致を効果的に活用した観光振興につなげるため、ヒアリング調査を行い基礎データを収集した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



外国人観光客数の推移

項目

秋の高山祭における「当番飾り」の復活

計画に記載している内容 当番飾りは、町家の中の「ミセ」を使用しなければならない催事であり、当番飾りのために伝統的建造物を保存する程の力が入っている。また、各組内での競争心も存在する。当番飾りは、町並みの中での伝統を反映した風習であり、伝統的な建造物群に精神性をもたらしている。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

「当番飾り」は高山祭の屋台を保持する屋台組が祭り当日、組の中の中心的場所の家の一画に氏神を奉り、お供えや飾り付けをする伝統的風習で、現在では行う組が少なくなっている。今回、歴史的建造物活用整備事業で整備を行う町家「旧村田邸」の改修内容や活用方法について、地域住民と意見交換を行うなかで、戦時中から途絶えていた当番飾りを復活させる話が持ち上がり、屋台組(鳩峯車台組)の人々の協力によって平成30年の秋の高山祭に旧村田邸に設置され、約70年ぶりの復活を遂げた。事業の取り組みがきっかけとなって、地域の歴史的風致の向上につながった。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等

旧村田邸に設置され約70年ぶりに復活した当番飾り





法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	平成30年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 高山市歴史的風致維持向上計画協議会	
会議等の開催日時: 令和元年5月17日	
(コメントの概要)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・無電柱化等事業については、計画通りに進んでいないということだが、今後も地元と協議しながら、検討を進めていただきたい。</li> <li>・文化遺産・地域資源活用調査事業について、今年度は朝日地域の3台の屋台を調査したということだが、他の地域についても調査を進めていただきたい。</li> <li>・伝統構法木造建築物の耐震化について、特に重要伝統的建造物群保存地区においては町家が連担しており、耐震化されていない建築物の数が多いため、耐震化の促進を更に進めてほしい。</li> </ul>	
(今後の対応方針)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・無電柱化等事業については、地上機器の設置位置や既存の埋設管との関係において課題が判明したため、令和元年度はそれらの解決策を検討する。検討が進む段階でできる限り地元の説明を行い、次年度の工事に向けて再設計を進める。</li> <li>・文化遺産・地域資源活用調査事業については、他地域についても調査を進めるとともに、地域の方と活用や保存に向けた協議、意見交換をしながら、今後の方向を見出していく。</li> <li>・伝統構法木造建築物の耐震化については、関係者への声掛けを積極的に行い、更なる促進に努める。</li> </ul>	